

軍部に抗議するミャンマーの労働組合：医療労働者の闘い



マ・モエ・サンダール・ミント/マ・エイエイ・フィユ/マ・ティン・ティン・ワイ
(いずれも医療労働組合活動家)

『ジャコバン』(Jacobin (magazine)社会主義を唱える米国左翼誌)

2021年3月11日 翻訳：脇浜義明

(以下はジャコバン誌が3人の医療労働者活動家に行ったインタビュー。

外資系縫製工場労働者の組合は軍のクーデターに抗議するゼネストで中心的役割を担った。

アウンサンスーチー(ロヒンギャ民族浄化にもかかわらず、反軍部と開かれた社会建設という点で、彼女はビルマ労働者

の間に人気がある)の国民民主同盟の政権復活と、国際ブランド企業にスト労働者の首を切らないようにビルマ企業に圧力をかけることをゼネストは要求した。

連日のように活動家の殺害が起きているが、抗議運動は衰えを見せていない。)





質問:クーデター抗議で医療労働者が先陣を切って、第一次ゼネストが成立したのですね。

マ・エイエイ・フィユ (MEEP) :言葉にならないほど感動しています。私たち縫製労働者が導火線に火をつけたのです。

マ・モエ・サンダール・ミント (MMSM) :国民も私たちのことを誇りにしています。初日は弁当持ちでストに参加しましたが、二日目からは民衆がランチを差し入れてくれました。

質問:クーデターは労働者にとってどんな意味がありますか。

MEEP: 国民民主同盟政府が労働者の完全な擁護者であったわけではないけれど、それなりの前進があり、賃金上昇の希望がありました。民主化前の軍政権時代には労働者権利は皆無でした。企業は任意に首切りしました。クーデターはそういう時代に戻ることを意味します。だから、解雇覚悟でストで軍事独裁政権に抗議するのです。

マ・ティン・ティン・ワイ (MTTW) : 私たちは国全体のために闘っています。軍が勝利すれば、組合がなくなるか、御用組合化するでしょう。労働者だけでなく、国民みんながものを言えない状態になるでしょう。私たちは受動的国民になりません。

質問:第一波ゼネストのオルグ活動について説明してください。

MEEP: 緊急全労働者集会を開き、軍事政権のもとでは何が失われるかを議論しました。二月五日にデモ行進を行いました。警察に囲まれ怖かったけれど、民衆の声援で涙が出ました。デモの後、宿舎や工場で警察の指導者探しが始まりました。私は今は地下に潜っている状態です。

MTTW: 二月一日に緊急集会、二月五日から職場内キャンペーン、国家や一九八八年民主化運動の歌を合唱しました。管理職も参加しました。みんな赤いリボンを付けたのですが、リボンが足りなくなったので、製品材料の布をカッターで切ってリボンを作りました。昼食時間は三〇分ですが、一〇分で食事を終えて残る二〇分でキャンペーンを行えというのが組合の指示でした。

二月六日には街頭へ出て、学生や市民グループとデモをやりました。サガイン産業地区の道路でシット・イン、その後ミャンマー中央銀行やIKO 地方事務所へ行き、有名外国資本に軍部に協力するなど圧力をかけました。

ラインタヤ工業団地には外資系縫製工場が約三〇〇あって、そこがストの中心になりました。組合のない工場では労働者が休暇をとって抗議行動に参加しました。

MMSM: クーデターのとき軍は通信網を切断したので、インターネットを使えなかった。ラジオを買ってきて情報を収集しました。指導者は他の組合と連絡をとり、緊急会議や集会で軍に対峙する

方法を議論しました。単独で闘える問題ではないので、広い連携が必要でした。学生集団とも接触し、話し合いました。

質問:ゼネストの持つ意味を説明してください。

MEEP: 国民の様々なグループがゼネストに参加しました。軍部に「我々はお前を望んでいない」ことを知らせる重要な意味があります。

質問:オルグ活動でどんな困難がありましたか。

MMSM: 例えば親の反対です。娘が政治や組合に関わるのに反対する親が多いのです。私たちの親は百姓で、私たちは農村で生まれ、因襲の中で育ちました。身体全体を覆うルンギーを着せられ、女子の夜間外出禁止の中で育ちました。親は私の抗議活動を非常に心配しています。でも、私の夫は私の活動を支持し励ましてくれます。

スト中の賃金はないので、家賃支払いに困る労働者がたくさんいます。スト中の家賃を延期したり減額してくれる同情的な家主がいますが、立ち退きを迫る家主もいます。

質問:読者に言いたいことがありますか。

MTTW: 私たちには国際社会の支援が必要です。一九八八年の民主化運動でたくさんの方が殺されましたが、同じことが繰り返されることは望みません。抗議者が殺害されるたびに心が張り裂け、国際社会に助けてくれと叫びたくなるのです。

MMSM: 解雇や賃金カットを受けた妊娠中労働者、子育て労働者、家族の大黒柱労働者がいます。ILOの規定では形成者が労働者の権利行使を圧迫してはならないとあります。だから、アディダスやザラやH&Mなどの有名ブランド社に労働者の権利を保障するように地元下請け企業経営者の圧力をかけてくれと要請したのです。要請文を送ったけれど、まだ回答はきていません。

MEEP: 私はエーヤワディ地域の農家出身です。コメの現物納で税金を払っていました。小学校四年生のとき、天候不順でコメが収穫できず、税金未納になりました。警察ややってきて、おじいちゃんといとこを逮捕、他の者は逃げました。釈放されても税金から逃れられないので、農地の権利を売って納税しました。私と兄は学校をやめて都会で出ました。だから、私は軍事政権を憎んでいます。私の子どもたちに同じ経験をさせたくありません。

MMSM: 私たちの闘いは権力闘争ではありません。権力悪から身を守る闘いです。若い人が銃撃で倒れると、闘いの中にいる母親として心が張り裂ける思いです。そのたびに闘いの決意が強くなります。殺すなら殺せ、一度死んだらそれ以上死ぬことはない、苦しい中で思う毎日です。